2026年11月18日(水)お寺カフェ

招福熊手



★招福熊手とは福や金運、運気をかき集める意味を持つ縁起物です。関東の酉の市、関西では十日戎などで授与され、岡山では吉備津神社の熊手、福箕が有名です。

★酉の市は鷲神社、酉の寺、大鳥神社など鷲や鳥にちなむ寺社の年中行事です。2026年は11月7日が一の酉、19日が二の酉に当たります。三の酉がある年は火事が多いと言われ熊手に火の用心のシールが貼られますが、2026年は三の酉はありません。

★2027年の干支は羊です。今回の熊手には縁起物として羊の角に似たシープホーンを付けています。シープホーンはパナマ草の花序や実を乾燥させたものです

材料

- 竹熊手
- 造花(松、牡丹、菊、千両など)
- 干支シープホーン、江戸打紐
- フラワー用ワイヤー、テープ

作り方

1. 材料を揃える
2. 造花の軸を必要な長さを残してカットする。(松は15センチ、その他は10センチほど。華が複数ついているものはバラして、長さが足りないものは軸をフラワーテープで固定して足す)
3. シープホーンと造花の花の根元付近に半分に曲げたワイヤーを巻いておく。
4. 熊手の手のひら側に造花を固定していく。花は首を曲げて正面を向くようにしたら豪華に見えるので位置を確認しながらワイヤーで軸に留めていく。(ワイヤーのとめる位置はできるだけまとめると出来上がりが綺麗になる)
5. 造花をつける順番は、松→牡丹→菊→千両の順番。
6. 造花を全部付けたら映りのよい場所にシープホーンを差し込み、ワイヤーで固定する
7. 熊手を裏返して余分なワイヤーを五センチほど残してカットし、ワイヤーは軸に沿わせてセロテープで止めておく。
8. 江戸打紐をワイヤーを隠すように下から巻いていく。花の根元で蝶々結びする。紐の端にビーズを付けてから結んで留めて、出来上がり。